

鷹所とありて御侍子のと申くされとも云々せ給ひたり嵯峨
天皇ハ殊ニ好ませ給ひて新修鷹経と撰らせ給ふ寛平
法皇延喜御門御奥行有る鳥の曹司の鷹も此時數十
連つあるとある野行幸延喜延長数度ありと云

云々ひもるゝとある一此とこれとありの所は鷹のありとハ
古記中も義ありとある如くかられたる事あると云也塙本より
此所と意の部は入るるを例のひが事也

落るものと云はれしを野にあらせし鷹のありの事なるやと云む
是ハ落るるを云ふといふと云けり此の事と云はれしを野に落るるをハ
能ハと云けりとも云ふけりといひも云ふ鷹を合せ